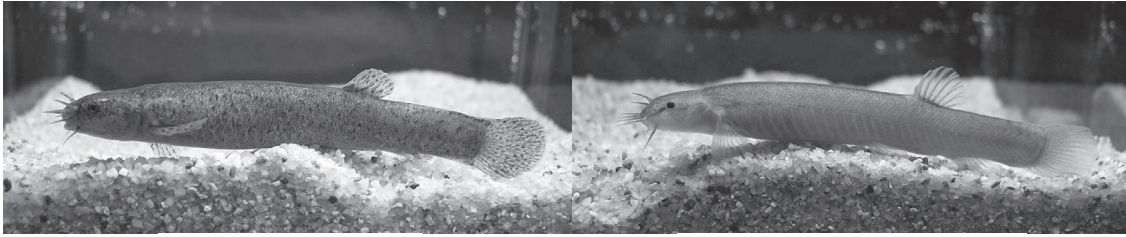


ホトケドジョウとナガレホトケドジョウの卵・仔稚魚の比較

青山 茂（ひとはく地域研究員）・土井敏男（元神戸市立須磨海浜水族園）

はじめに

日本産ホトケドジョウ属 4 種のうち、兵庫県にはホトケドジョウとナガレホトケドジョウの 2 種が分布している。ホトケドジョウは湧水起源で、砂泥底の水路や湿地に生息する。ナガレホトケドジョウは山間の浅くて流れの穏やかな砂礫底の細流に生息する。ここでは、加古川水系の生息地から得た両種の卵・仔稚魚について、形態的な比較を行い、生息環境への適応等について考察した。



ホトケドジョウ

ナガレホトケドジョウ

材料と方法

ホトケドジョウの仔稚魚については、丹波市青垣町の水につかった休耕田で採集した。ナガレホトケドジョウの卵・仔稚魚については、神戸市北区の源流域で採集した。一部は生息地で採集された親魚が産んだ卵とふ化させた仔魚を用いた。得られた卵・仔魚は 5%ホルマリン標本とし、実態顕微鏡下でサイズ測定と形態観察を行った。

結果

卵径について、ホトケドジョウでは 1.1-1.2mm、ナガレホトケドジョウでは 1.3-2.3mm で、前者の方が小さかった。仔魚についても、同一ステージでは前者の方が小さかった。ホトケドジョウでは背側に大きな黒色素胞が縦帯状に並び、ナガレホトケドジョウでは小さな黒色素胞が体全体に広く分布していた。眼の位置については、ホトケドジョウではより側面に、ナガレホトケドジョウではより背面に位置し、前者では腹側から一部がはみ出て見えるのに対して、後者では見えず、仔稚魚の眼径については前者では吻長より大きく、後者では小さかった。

まとめ

以上の形態的特徴から、ホトケドジョウの仔稚魚では日当たりの良い止水的な環境での浮遊生活に適応しているのに対して、ナガレホトケドジョウの仔稚魚では薄暗い流れの砂地や礫面での底棲生活に適応していると考えられた。

参考文献

Aoyama S. & Doi T. (2011) *Folia Zool.* 60: 355-361.

青山 茂 (2017) *兵庫陸水生物.* 67・68: 19-21.